

20周年 20th Anniversary
ご愛顧特別感謝祭 PanFolling

投資戦略フェア EXPO2022

オンラインサミット

Vol.

2

6/25日(土) タイムテーブル



第1部 12:00 - 12:55

講師：中原圭介

これからの経済予測と 投資戦略



第2部 13:00 - 13:55

講師：はっしゃん

月次情報と理論株価で探す 割安成長株



第3部 14:00 - 14:55

講師：鎌田博

米国株チャート 最強の教科書



第4部 15:00 - 15:55

講師：成田博之

ロングショート戦略



第5部 16:00 - 16:55

講師：坂本慎太郎 / 田代岳

マクロ分析と 銘柄ピックアップ



詳しくは

トレーダーズショップ



▶ 投資戦略フェア EXPO2022

トレーダーズショップ

検索

20周年 ご愛顧特別感謝祭 PanRolling

投資戦略フェア EXPO2022

2

オンラインサミット

Vol.

6/26日 タイムテーブル



第1部 12:00 - 12:55 講師：井村俊哉 / 岩間剛一 / 大場紀章

世界を揺るがす
資源価格大予言



第4部 15:00 - 15:55 講師：相場師朗

株も米市場も技術だ!



第2部 13:00 - 13:55 講師：日経OP売坊

荒れ相場の妙味
リスク限定の大化けトレード



第5部 16:00 - 16:55 講師：アミン・アズムデ / 石原順

市場のシナリオ分析
(日米市場・ドル円・商品)



第3部 14:00 - 14:55 講師：岩本祐介

勝率80%のマーケットの
魔術師のトレード戦略



詳しくは

トレーダーズショップ



▶ 投資戦略フェア EXPO2022

トレーダーズショップ

検索

【オプション倶楽部】OP売坊戦略コース



早期割引中！

充実の180日間（2022年8月1日～2023年1月31日）

募集：20名限定

99%の確率で年率15%の収益を安定的に稼ぐことを目的としています。
成功へのカギは確率統計とリスク管理だけ！（エクセルシート付き）

<実践を支える7つのコンテンツ>

1. 学習プログラム（動画・全7編66回）
2. 週次レポート（対象市場：日経225オプション・米国株オプション）
3. 月次セミナー（オンライン生配信とオンデマンド配信）
4. アラートメール（暴騰・暴落注意報など）
5. 個別質問掲示板（会員間で情報を共有）
6. リスク管理エクセルシート
7. 入門テキスト（PDF）

トレーダーズショップ

検索

日経225OPトレード入門オンラインセミナー 7月23日（土）



早期割引中 ～ 6月30日まで15%OFF!!! ～

1. 入門編

- 日経225OPの魅力とは
- CALL売りの優位性
- どの権利行使価格で売るか
- CALL売りの好機と警戒局面
- 建玉管理と証拠金管理
など

2. 分析編

- 日本株市場
- ボラティリティ
- 米国株市場
- 買い戦略と応用戦略
- 質疑応答（チャット機能より）
など



本セミナーの内容を深く理解していただくために
受講後に『入門テキスト』（PDF）をプレゼント！

画像はイメージです。

トレーダーズショップ

検索

『賢者のマーケットインサイト』資料

(2022年6月22日放送分)

【オプション倶楽部】OP売坊戦略コースでは
2022年**8月開講**の新規会員（第四回）を募集中。
つきましては、**7月23日（土）**にオンラインで
入門セミナーを開催します！ 詳しくは「**OP売坊戦略**」で検索してください！

- この資料は、ファイナンシャル・リテラシーの向上のみを目的として作成されたものです。
- したがって、いかなる投資勧誘の目的で作られた物ではございません。
- この資料での数値などにつきましては、信頼できる筋からの情報に基づいておりますが、その正確性を保証するものではありません。
- 投資につきましては、あくまで、自己責任でお願い申し上げます。
- 日経OP売坊は一切の責任を負いかねます。ご了承ください。



日経OP売坊

2022年7・8月限SQ日までの注目イベント (P.2)

<米国>

- 7月08日：雇用統計
- 7月13日：消費者物価指数
- 7月27日：FOMC政策金利
- 8月05日：雇用統計
- (11月08日：中間選挙)

7月13日CPIで再度波乱があるかもしれません。CPIが上昇している場合は1.00%の利上げも想定しておきたいところです

<欧州>

- 7月21日：ECB政策金利

ギリシャやイタリアなどが厳しい状況ですので、南欧諸国の債券利回り上昇(債券価格の下落)がグレイ・リノとなるかもしれません。さらに、その前に新興国がそうなるかもしれません

<日本・世界>

- 6月24日：消費者物価
- 7月10日：参議院選挙
- 7月21日：日銀金融政策
- 7月22日：消費者物価



※SQ日は期近(月次・週次)の未決済建玉が清算されるためオプショントレーダーにとって区切りとなる日です。

2022年 6月

5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

2022年 7月

					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

※25・26日開催『投資戦略フェア Expo2022 Vol.2』の26日13時に登壇します!

※23日10時から『日経225OPトレード入門セミナー』をオンラインで開催します!

2022年 8月

	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13

日経225週次オプションのSQ日
日経225ミニ先物・月次オプションのSQ日
メジャーSQ 日経225先物・ミニ先物・月次オプションのSQ日

注) 予定は予告なく変更される場合があります。

出所) ブルームバーグ・ロイターなどから管理人作成

※『OP売坊公式ツイッター (@OP49431790)』でもニュースについてつぶやいています。ご参考になれば幸いです

2022年の今後の重要イベント (P.3)



年末に向けて毎月の特に重要なポイントです

- 7月 FOMC 参議院選挙(日本)
- 9月 FOMC メジャーSQ
- 11月 FOMC 中間選挙(米国)
- 12月 FOMC メジャーSQ
- + 毎月のCPIや雇用統計等

注) 上記は予告なく変更の場合があります

OP売りは、ここを通過するときには慎重に、一方OP買いは、ここを通過するときには仕掛けを考えるポイントといえます。金利上昇局面で、スタグフレーション懸念もあるなかでは、なおさらチャンスは多いと考えています



【参考】 7月限22750PUTは6倍に (P.4)



これは「6月発表の米CPIが市場予想を超える高さになり得る」との弱気予測からPUT買いに好機があったという例です。タイミング的には6月9日(金)に7月限22750 PUTを買い、14日に手仕舞えば、50円近い値幅を取り得ました





OP売坊のグレイ・リノ (P.5)

サイは普段おとなしいが怒ると、とっても怖いのだ

食料価格 [👉P10] と原油価格の高騰

地政学的リスク

→ウクライナ問題

→中国の台湾侵攻懸念

日米欧とも、スタグフレーションの懸念が高まっています。特に欧州は厳しい状態でしょう



日米欧ともにスタグフレーション懸念 [👉P6]

日米中の財政悪化・増税

米国の長短金利動向と円ドル為替介入の有無

金利上昇・資産圧縮の米国株への影響 [👉P6~12]

米国中間選挙とパウエル長官の去就

TOPIX・日経平均の見直し・変更

日本の2024年・2025年・2030年問題 [👉P5]

日本の参議院選挙と黒田総裁の去就

中国不動産バブル崩壊懸念と景気失速

バフェット指数 (株式時価総額÷名目GDP) の異常値

米国 : 149.1 (6月16日概算)、215.3から下落中

日本 : 136.7 (6月16日概算)、161.7から下落中 など

食料問題は、かなりシリアスです。ウクライナから小麦が輸出できないばかりか、米国も干ばつで不作です。米農務省は5月レポートで、冬小麦の収穫量は8%減の見通しだと発表しました。今のところ、日本では政府売渡制度のおかげでショックが和らげられているといえるのですが、今後、諸外国との買い付けに敗れば、おのずと価格は上がります



グレイ・リノ (灰色のサイ) とは、高い確率で大きな問題を引き起こすと考えられるにも関わらず、軽視されている事象のこと。それが起これば大きな値幅が出るため、オプション投資家に重要となる。特にPUT買いを仕掛けられる可能性や、破産もあり得るPUT売りを避けられる可能性が高くなる。



日本の2024年・2025年・2030年問題 (P.6)

2024年問題

- 働き方改革関連法による物流業界の問題 (2024年4月1日から)
- 「自動車運転業務」の時間外労働が年960時間と上限規制

2025年問題

- 約800万人いる団塊の世代が後期高齢者 (75歳以上) に
- 国民の4人に1人が後期高齢者という超高齢社会に
- 労働人口の減少、社会保障費の増大、不足や医療の問題

ドライバー不足となれば、モノが運べないということになります。スーパーなどに品物が並ばない、ネットで買った商品が届かないといった状況が想定されます



2030年問題

- 15歳以上65歳未満の生産年齢人口比率が6割以下に
- 労働需要に対し、約650万人が不足。

2030年問題とは日本人の3分の1が高齢化 (65歳以上) する問題です。労働人口が減るのでGDPも低下する可能性があります



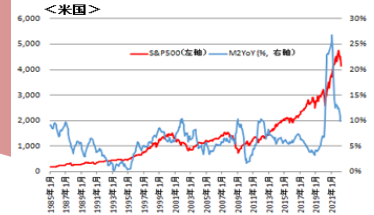
2022年の米国市場を取り巻く環境 (P.7)



資産配分
の変更



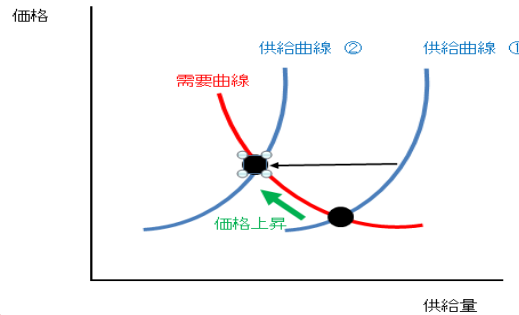
通貨供給量の
鈍化



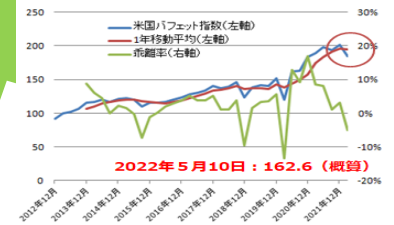
FRBの
資産圧縮



インフレ懸念



バフェット
指数



配当割引
モデル

	0%	1%	2%	3%	4%
現在価値の総和	500.0	395.9	320.5	265.0	223.4
来年	10.00	9.90	9.80	9.71	9.62
50年後	10.00	6.14	3.79	2.35	1.46
1%下落	1.26	1.24	1.21	1.19	
1%上昇	0.79	0.81	0.83	0.84	



中間選挙





リスク対リターンの最適化 (P.8)

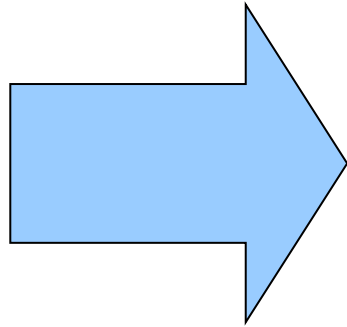
(入力)

期待収益率

リスク

相関係数

制約条件



各資産への配分比率

(求めるもの)

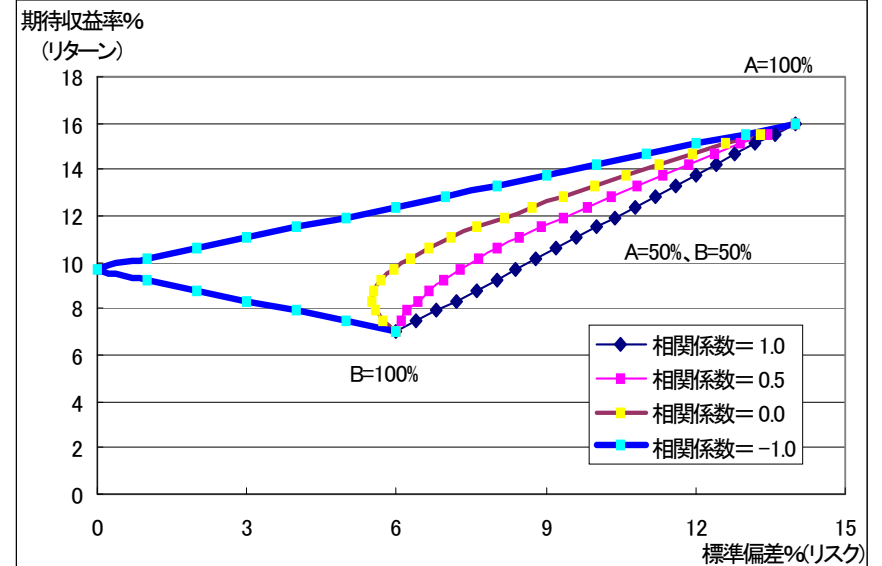
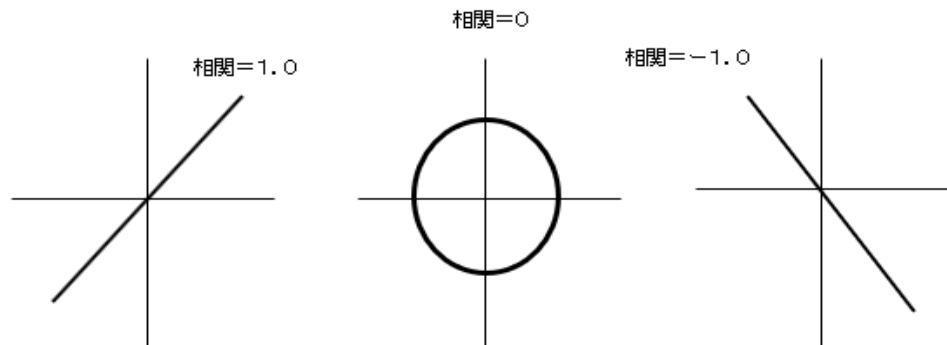
- 1) リスクの最小化
- 2) リターンの最大化
- 3) 1リスクあたりのリターンの最大化

投資家がポートフォリオを最適化する考え方です。下のグラフは債券と株式の組み入れ比率を変えると、ポートフォリオのリスク・リターン関係がどう変わるというものです。その関係は、債券と株式の相関によっても変わります



相関係数とは

2つ以上のものの動きにどの程度の関係があるか、その強さと方向性をしめたもの。
 同じ方向であれば正、反対の方向であれば負の数字をとる。
 相関係数: 1 ~ -1





長期投資家の資産配分は「株売・債券買」に (P.9)

ポートフォリオA)	期待収益率	リスク	資産配分
米国株	10%	20%	50.0%
米国債券	1%	3%	50.0%
相関係数(▲0.302)の場合			



ポートフォリオA)	期待収益率	リスク
	5.50%	9.65%

ポートフォリオB)	期待収益率	リスク	資産配分
米国株	10%	20%	50.0%
米国債券	3%	8%	50.0%
相関係数(▲0.302)の場合			



ポートフォリオB)	期待収益率	リスク
	6.50%	9.58%

ポートフォリオC)	期待収益率	リスク	資産配分
米国株	10%	20%	35.7%
米国債券	3%	8%	64.3%
相関係数(▲0.302)の場合			



ポートフォリオC)	期待収益率	リスク
	5.50%	7.43%

この表は長期投資家の資産配分の考え方を示しています。長期投資家は、目標収益率を実現するため「いかにリスクを下げるか？」という発想から債券利回りが上がれば、同じ期待収益率で、株式の比重を引き下げ、リスクを下げるすることができます

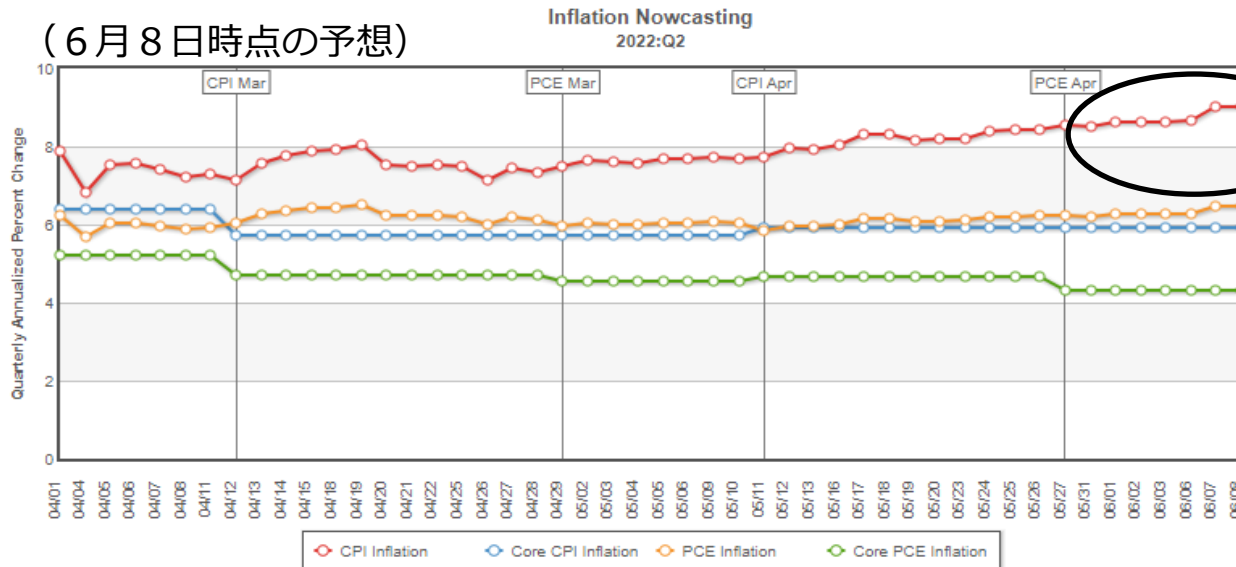
出所) 筆者計算





リセッションがインフレ退治の特効薬？ (P.10)

(6月8日時点の予想)

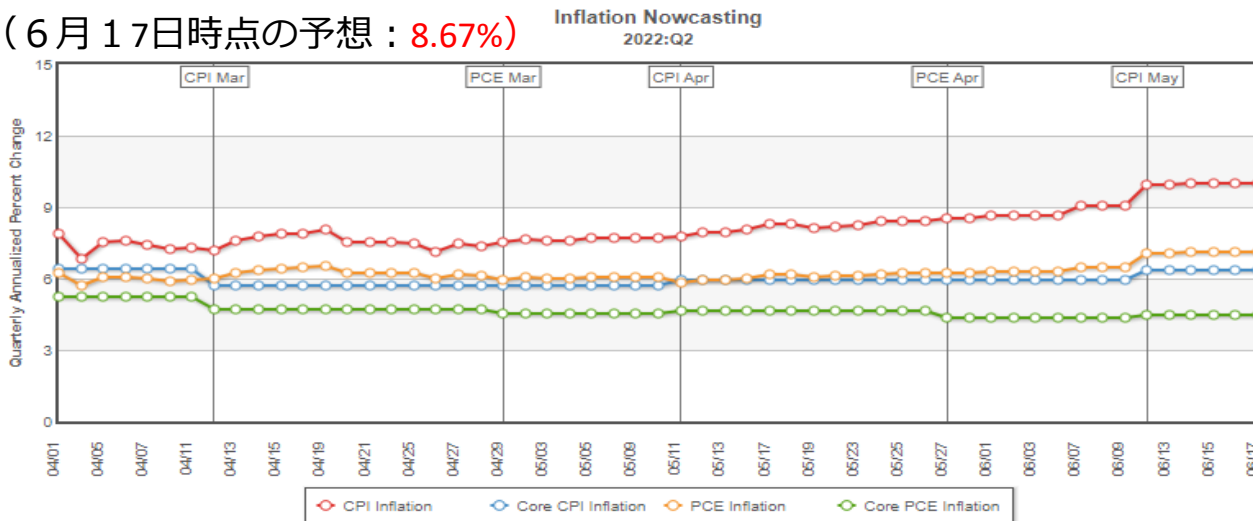


こちらはクリーブランド連銀が発表しているCPI・PCE（個人消費支出）予想の推移です。予想値がじわじわ上がっているのが気になります。このままでは、次回の数字は前回の8.6%を超える可能性が高そうです。P4の例は、この数字が日々上昇しており、また食糧価格やエネルギー価格も上昇していた一方で、市場では「希望的」楽観論が広まっていたため、株価の急落が想定されました

CPI (前年比)
 3月 8.5%
 4月 8.3%
 5月 8.6%



(6月17日時点の予想 : 8.67%)

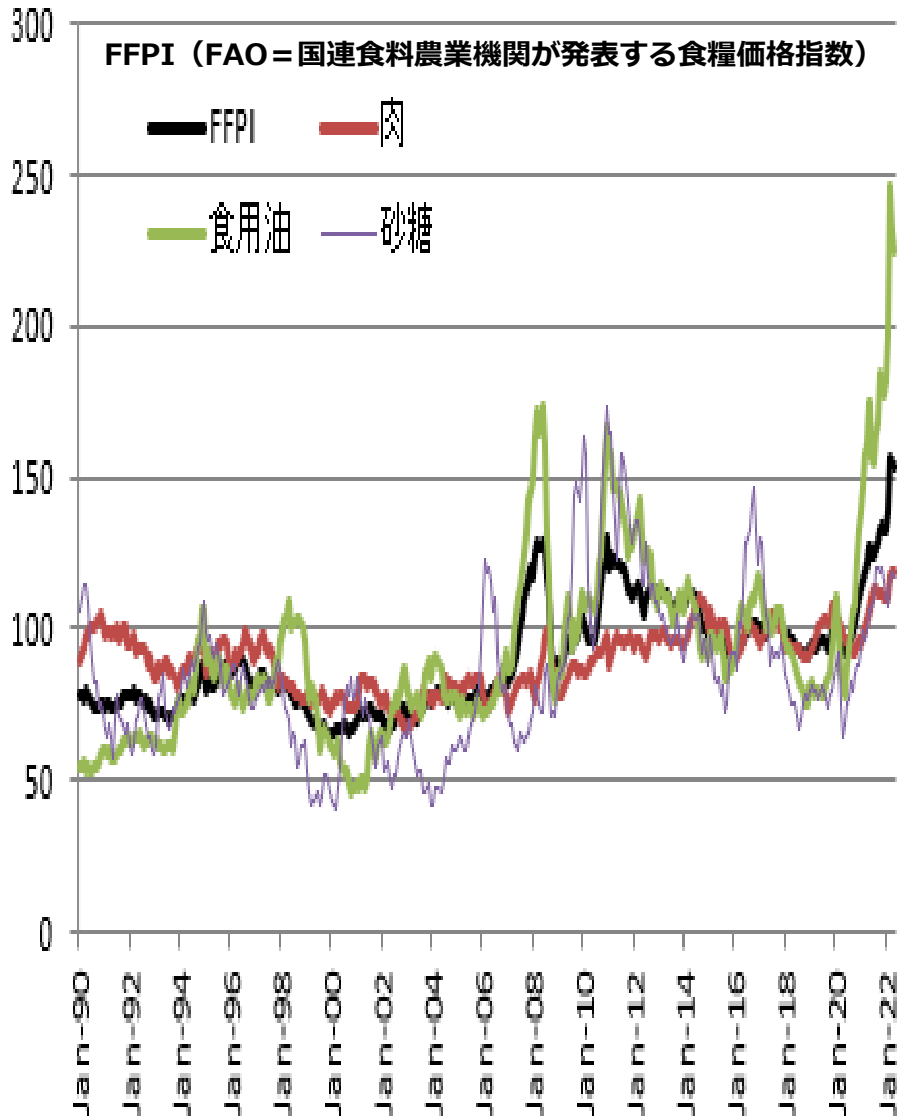


	季節調整済み(前月比)			季節調整なし 年間	比重 2022年5月
	2022年3月	2022年4月	2022年5月		
(%)					
米国CPI	1.2	0.3	1.0	8.6	100.0
食品	1.0	0.9	1.2	10.1	13.4
エネルギー	11.0	-2.7	3.9	34.6	8.3
上記以外	0.3	0.6	0.6	8.0	78.3

内、中古車	-3.8	-0.4	1.8	16.1	4.0
内、家賃	0.5	0.5	0.6	5.5	32.4



コスト・プッシュ・インフレでは需要減退が必要 (P.11)



(%)	季節調整済み(前月比)			季節調整なし 年間	比重 2022年5月
	2022年3月	2022年4月	2022年5月		
米国CPI	1.2	0.3	1.0	8.5	100.0
食品	1.0	0.9	1.2	10.1	13.4
エネルギー	11.0	-2.7	3.9	34.5	8.3
上記以外	0.3	0.5	0.5	8.0	78.3

内、中古車	-3.8	-0.4	1.8	16.1	4.0
内、家賃	0.5	0.5	0.6	5.5	32.4

出所) U.S. Bureau of Labor Statisticsより、筆者作成

**供給不足の状態なので、
需要が下がらなければ価格は上昇。
インフレは収まらない。**

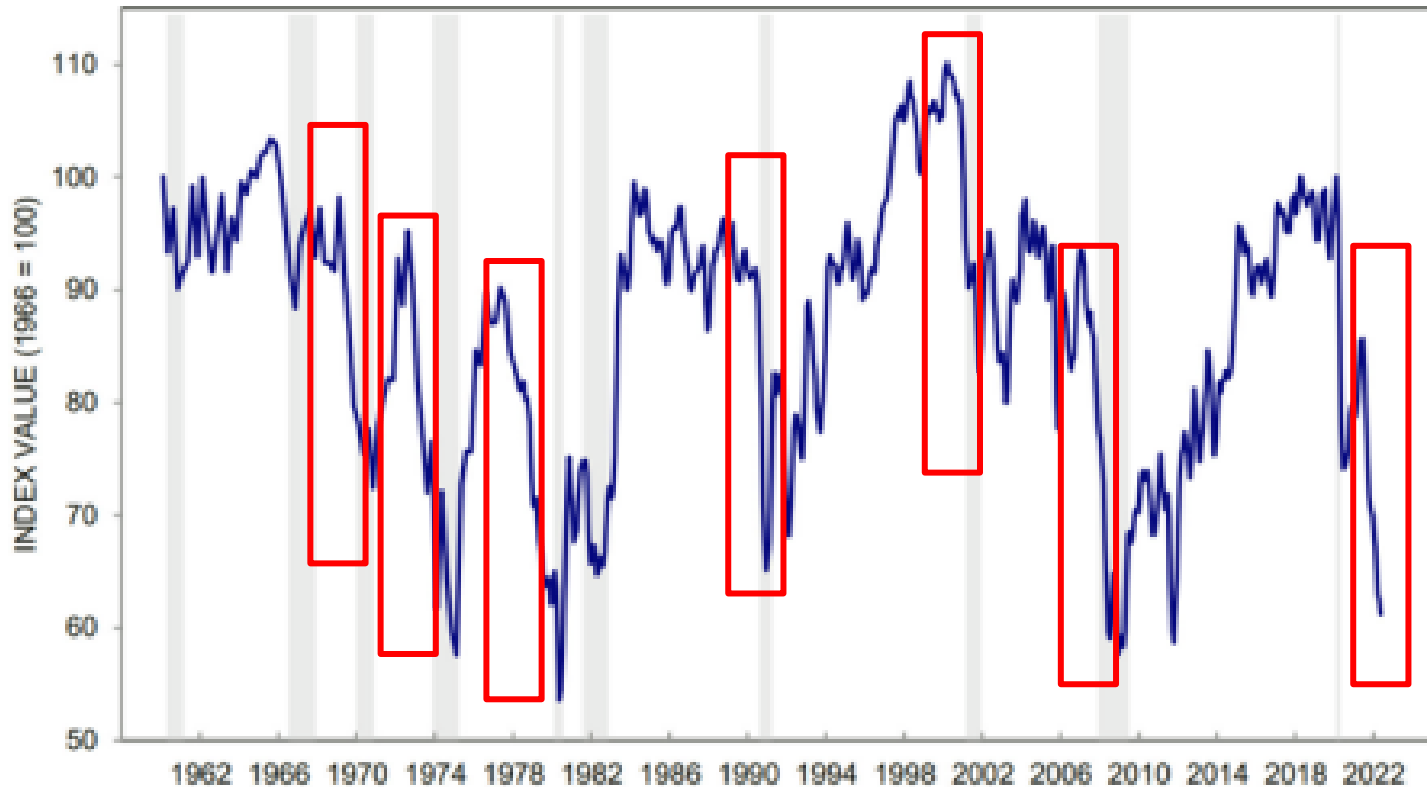
人は食べないと生きていきません。高い食糧価格を払ったあとの可処分所得が減れば、当然景気にはマイナスです。「モノ」が買えないのですから





マーク・ファーバー博士のレポートから (P.12)

図 13 ミシガン大学消費者信頼感指数 (1962—2022)



出所 : Charts — Surveys of Consumers (umich.edu)



ファーバー博士のレポートには、とても考えさせられる視点が多々あります。これもそのひとつです。過去に短期間で10ポイント以上下落したあとは、かなりの確率で景気後退（リセッション）入りしているのが見てとれます

出所) パンローリング「マーク・ファーバー博士の月刊マーケットレポート2022年6月号」より転載

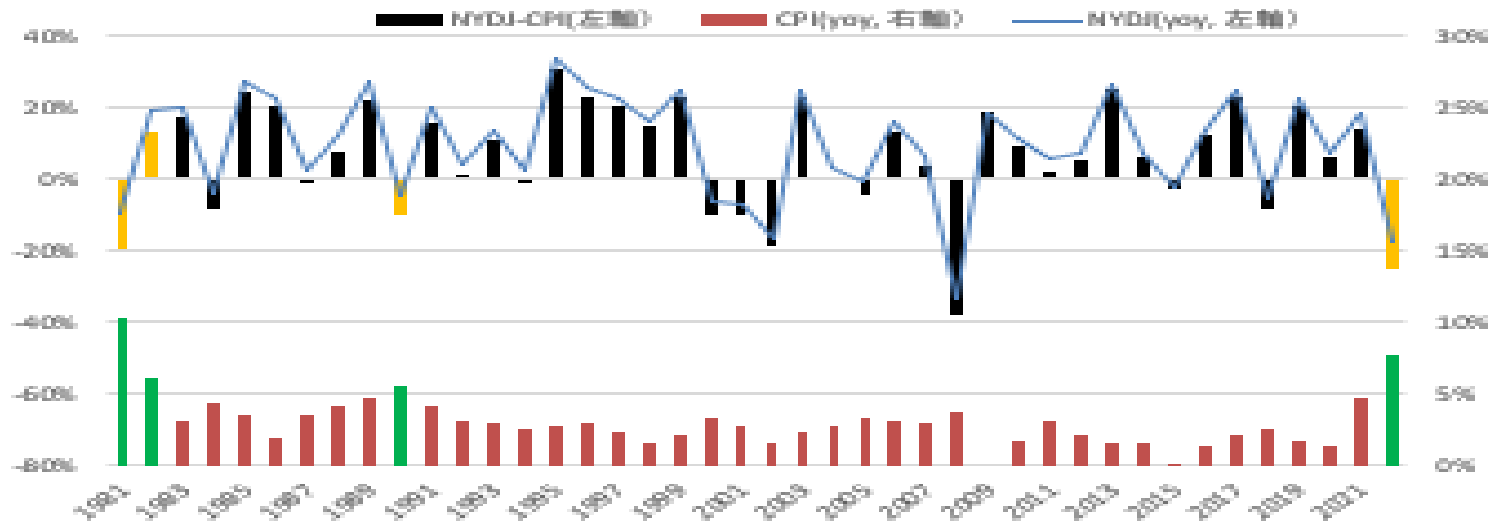
<https://www.tradersshop.com/bin/showprod?a=17215&c=2011281600009>



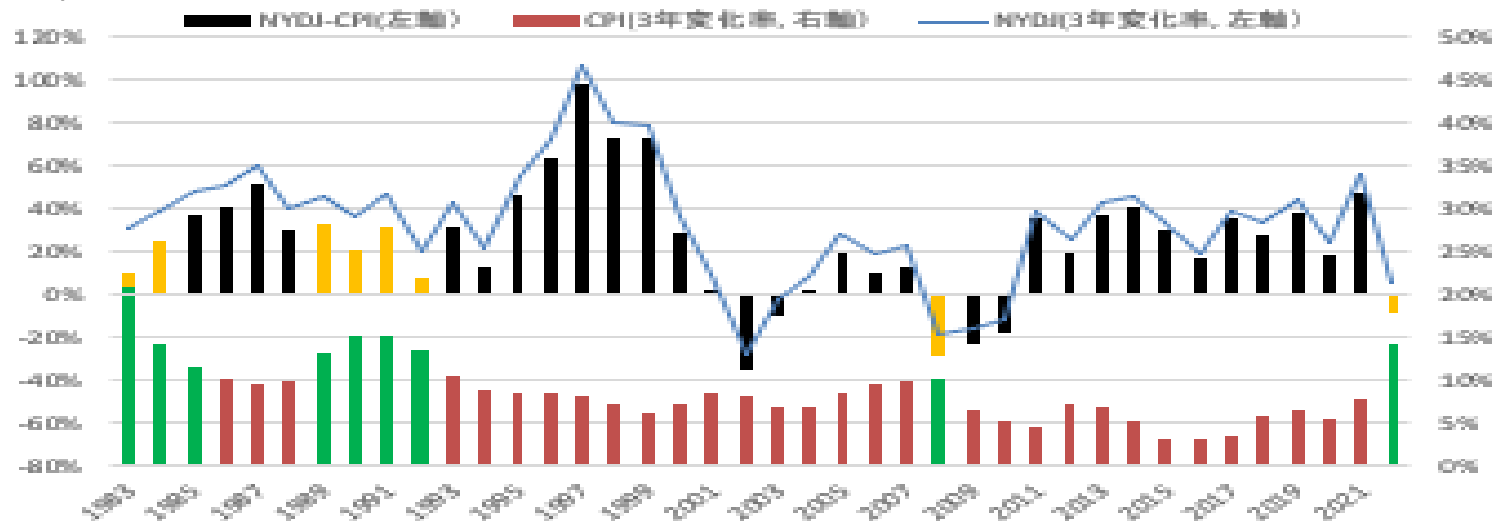


株はインフレに強いのか？ NYダウの名目と**実質** (P.13)

<1年>



<3年>



消費者物価と株価の関係です。消費者物価が上昇している局面では、1年程度では株式のパフォーマンスが良くないと分かります。これを見る限り、高インフレ時には、焦って株を買う必要がないとも言えそうです。インフレのピークアウトと鎮静化を確認してからで十分、間に合うと考えています

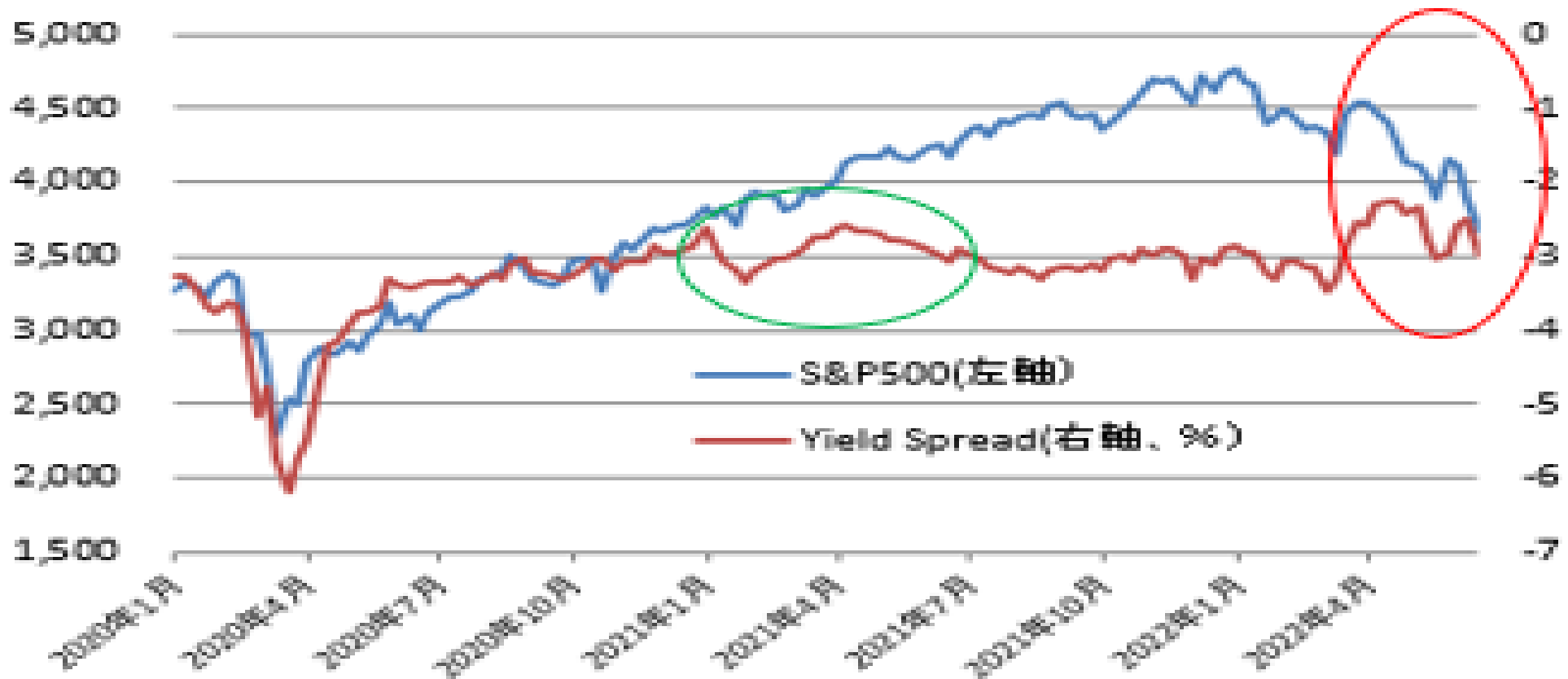




米国債との対比で米国株は割高 (P.14)

イールド・スプレッド (赤線)

米10年債とS&P500益利回りの差。その相対的な利回り差が3%より小さくなると、株式が割高とみられる。



出所) ブルームバーグより筆者作成 (2022年6月17日現在)

イールド・スプレッドを3%、米10年債を3.5%と4%で計算するとS&P500はそれぞれ、3511と3260程度となります



OPトレードで大事な3つの視点 (P.15)



相場は生き物

取引ルールの把握

私はOPトレードの本質を次のようにみています——「**確率**を考えながら**本質的価値**（その商品が本来持っている経済的価値）を見極める**心理**ゲームである」

確率

- HVとIV
- 分布
- 移動平均（乖離）

経済合理性

- **本質的価値**
- 時間的価値
- 経済理論

心理

- 需給
- 人間の行動
- フラクタルとカオス

証拠金管理を徹底して、負けない運用を → **すぐ逃げる**

なぜCALL売りなのか (P.16)

➤ 暴騰は相対的に予見しやすい
一方、**暴落**は予見しにくい

➤ 年金は**株**でも運用されている

株が上がり、年金運用がうまくいけば年金額が増える可能性があります。したがって、CALL売りで多少失敗しても、分散投資的な効果があります。一方、株が上がらず年金運用がうまくいかないのであれば、CALL売りから収益が出ることとなります

➤ 株の上昇時はボラティリティが下がることが多い

➤ 日本の物価上昇率は低い（株価は名目値）

【3%】 $1.03^{10} = 1.3439$

【0.5%】 $1.005^{10} = 1.0511$

PUT売りとの比較 (P.17)

	<u>CALL</u>	<u>PUT</u>
<u>日経平均の上昇時</u>		
価格	上昇	下落
IV	下落の場合が多い	下落の場合が多い
証拠金	場合による	下落

「場合による」としたのは株価が上がれば、基本CALLの証拠金が上がる一方（楽観論で）ボラティリティが下がれば、証拠金金額は基本下がる方向に作用するからです

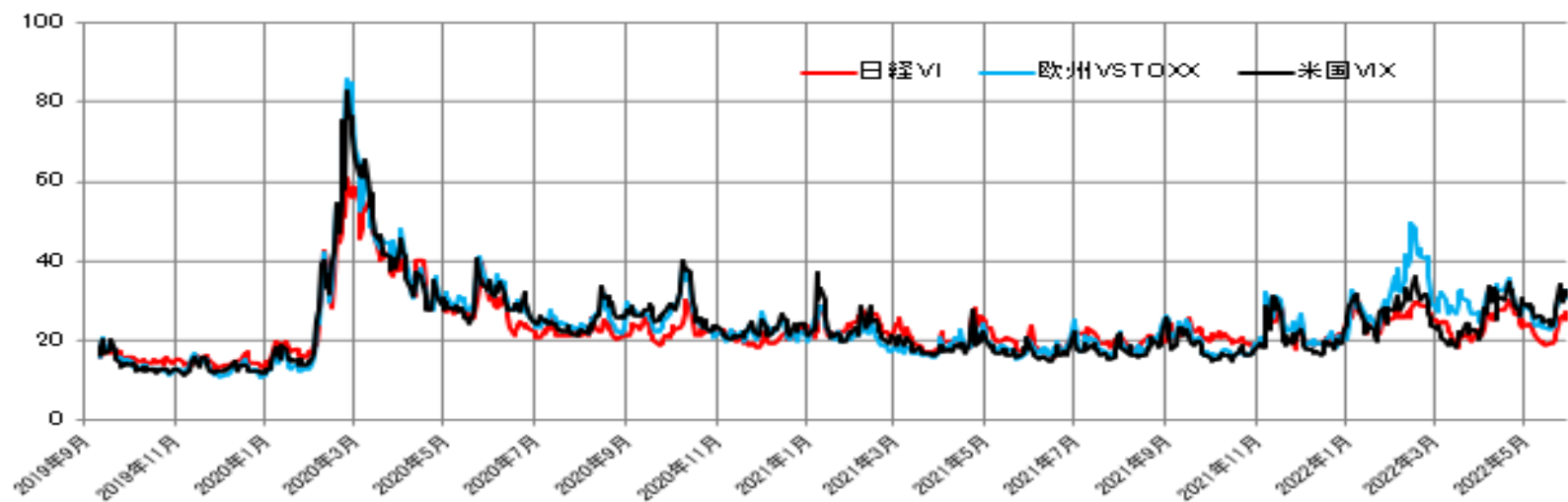
	<u>CALL</u>	<u>PUT</u>
<u>日経平均の下落時</u>		
価格	下落	上昇
IV	上昇	上昇
証拠金	場合による	飛躍的に上昇

PUT売りの危険なところは、株価急落で証拠金必要額が急増して証拠金不足となることです。追証に対して送金が間に合わなければ、強制決済です。その時、かなり不利な価格で決済される可能性があります

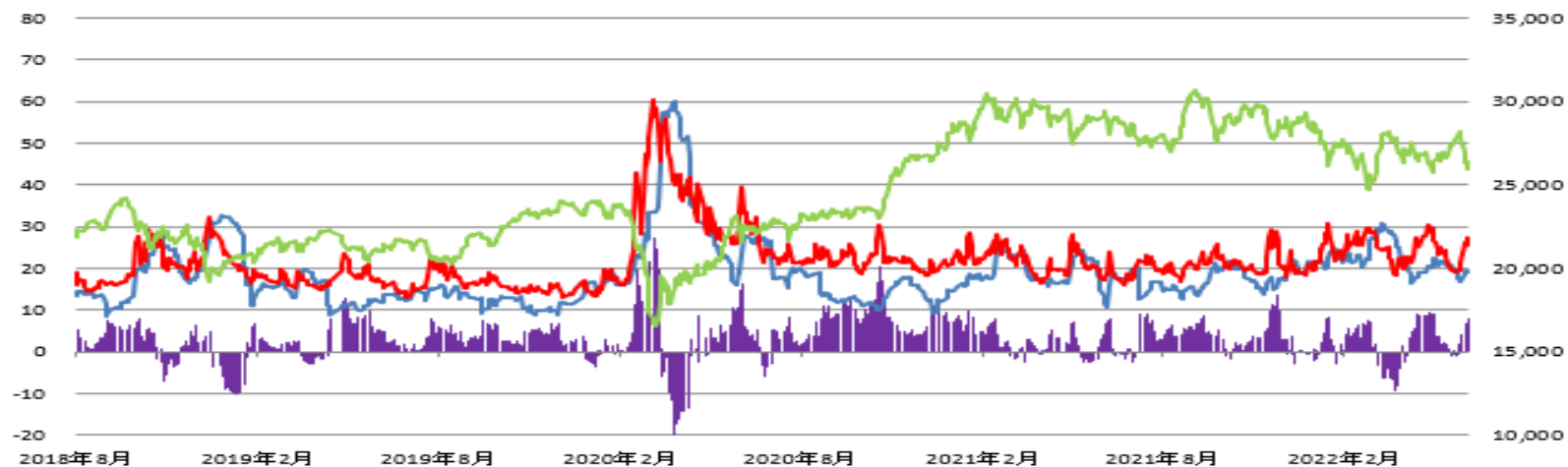
注) 一般的な状態で、場合によっては違う場合もあります。

ボラティリティは相場の状況を語り掛けてくれる情報源 (P.18)

日欧米のIV : 日本 = 日経VI : 27.31、 欧州 = VSTOXX : 30.89、 米国 = VIX指数 : 31.13 (2022年6月17日)

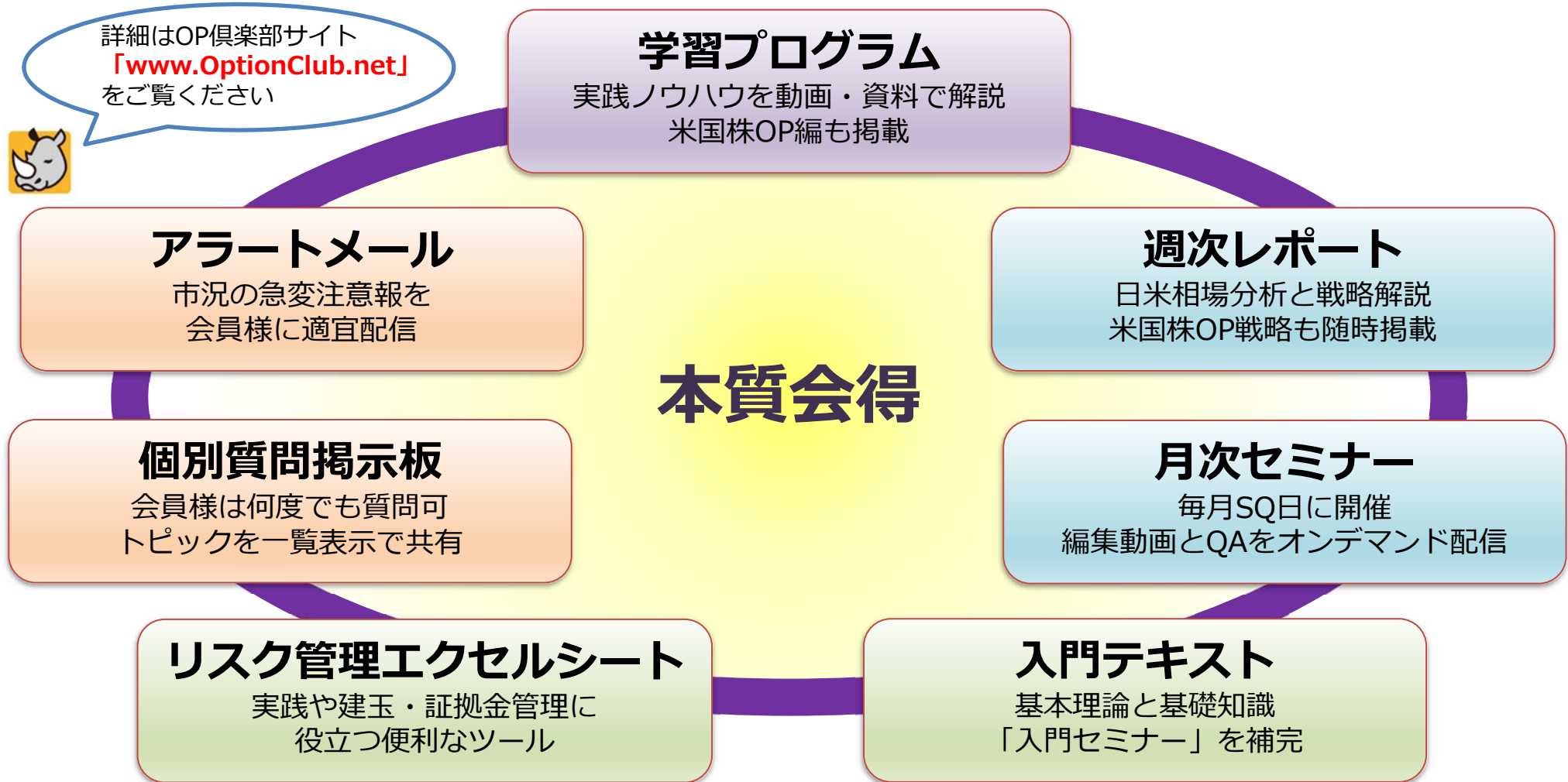


日経平均 (緑、右軸)、HV (青、左軸)、IV = 日経VI (赤、左軸)、IV - HV (紫棒、左軸)



ボラティリティには過去の指数のデータから計算したヒストリカル・ボラティリティ (HV) とそのオプション価格から逆算したインプライド・ボラティリティ (IV) があり、それぞれが、また組み合わせで相場状況を伝えてくれます

OP売坊戦略コース「7つのコンテンツで本質会得をサポート」 (P.19)



入門セミナーは「第一歩」として重要なので編集版を会員様ページで視聴できるようにしてあります。さらに、毎月のラジオ出演（メルマガ）やブログとツイッターで情報（材料）をご提供しています



新規会員様の期間は6カ月です。その後も継続会員様になっていただくことで引き続きご利用いただけます

OP売坊の重要視しているもの (P.20)

確率・勝率・収益率

資産管理・
リスク管理



パターン分析
(時系列
・分布)

簡単・
シンプル

次回は**7月20日**に出演
させていただく予定で
す。本資料は**番組HP**ま
たは**オプション倶楽部**
(optionclub.net)
から**無料メルマガ**「**グ
レイ・リノ通信**」にご
登録いただくと取得で
きます。メルマガでは、
この放送をさらに楽し
んでいただくための**補
足Q&A**などの情報を配
信しておりますので、
ぜひぜひお気軽にご登
録ください！ 質問も
募集中です！



質問大募集 →

<http://trs.jp/r/op-form>



【付録】 ミニOP・マイクロ先物、2023年第一四半期上場へ

2022/06/17 OSE

日経225マイクロ先物・ミニオプションの上場について

シェアする ツイート

当社は、市場参加者のニーズ等を踏まえ、株式会社日本経済新聞社が算出を行う日経平均株価を対象とした日経225マイクロ先物及び日経225ミニオプションを導入することとしますので、お知らせいたします。取引開始は、2023年度第1四半期を予定しております。

近年、現物市場における投資の小口化の進展等を背景として、より細やかなリスク管理手段に対するニーズが高まってきていることに加え、従来よりも取引想定元本の小さい先物・オプションの導入が求められている状況です。

当社は、こうした動向を踏まえ、取引単位を日経225miniの10分の1とした日経225マイクロ先物を上場するとともに、日経225オプション（週次設定限月）の取引単位を10分の1に変更のうえ通常限月も設定したものを、日経225ミニオプションとして開始いたします。これにより、投資家層の拡大を通じた先物・オプション市場の活性化を目指してまいります。

なお、本件につきましては、本日からJPXウェブサイトにてパブリック・コメントを実施しております。

● パブリック・コメント

【参考】日経平均株価を対象とした商品ラインナップ（2023年度第1四半期（予定）以降）

先物商品	取引単位（1枚あたりの取引想定元本（※））
日経225先物	1,000円（3,000万円）
日経225mini	100円（300万円）
日経225マイクロ先物	10円（30万円）

※ 括弧内の取引想定元本は日経平均株価が30,000円の時

オプション商品	取引単位	限月設定
日経225オプション	1,000円	通常限月
日経225ミニオプション	100円	通常限月及び週次設定限月

ミニOPやマイクロ先物をつかって、まずはどんな動きをするのかの練習ができますね。また、現物株やETFなどのヘッジにも使えます。さらに、複合戦略などがとりやすくなりますね



出所) JPX「<https://www.jpx.co.jp/news/2040/20220617-01.html>」

最後までご清聴、誠にありがとうございました。

講師ブログ『実践日経オプション教室』

<https://www.jissennkop.blog.fc2.com>

講師ツイッター『OP売坊@OP49431790』

<https://twitter.com/OP49431790>

Copyright © 2019-2022 日経OP売坊

All rights reserved. This report is for authorized recipients only and not for public distribution.